



当代中国外交をめぐる主要論点

- ① 伝統的差序の対外認識・対外行動か？ 近代主権国家システム（ウェストファリアン・システム）を前提とした対外認識・対外行動か？ あるいはそのどちらでもない第三者か？ **internationalism**
- ② **realism**（ないし**pragmatism**）か？ **idealism**（ないし**ideology**）か？ **moralism**か？
- ③ 国際情勢認識の固有性
 - 第一レベル 世界システム
 - 第二レベル 時代性・時代状況
 - 第三レベル 広義の国際政治システム（系統）
 - 第四レベル 狭義の国際システム（格局）
 - + 役割認識
 - システム論・時代論・系統論・格局論の4元性
- ③ 中国の世界および地域認識の固有性
Global, Regional, neighborの構造
- ④ 対外政策と国内政策の**linkage**問題
前者が後者を規定？ あるいは後者が前者を規定？
対外関係と世論、対外政策と**think-tank**
- ⑤ 毛沢東時代—鄧小平時代の連続性と断絶性
なにが一貫して、なにが変わったのか
国家目標、情勢認識、戦略、外交行動、政策プロセス、世論

当代中国外交概論の構想

I 概要

◆伝統、◆国家目標、◆外交思想、◆対外認識・対外戦略

II 国際社会・機構での外交行動

III 主要国との関係

◆対米、◆対ソ・対ロ、◆対日、◆対周辺国、◆対EU

IV 安全保障と経済外交 ジレンマか？ 統合か？

V 対外政策形成・決定プロセス

◆党、◆外交部、◆経済部門、◆軍隊、◆think-tank

VI 戦争と外交

◆朝鮮戦争、◆ベトナム戦争、◆中越戦争、◆イラク戦争

VII 国家統合と外交

◆チベット、◆新疆、◆台湾

中国における中国外交（史）研究①

豊富な外交文書の利用——中国自身（～1960）、旧ソ連・東欧のアーカイブ、米国のアーカイブ、multiarchivalな個別研究
以下、ポスト冷戦期の中国での研究、各分野の代表作

◆概論

謝益顕主編『中国当代外交史（1949-2001）』中国青年出版社、2006年
曲星『中国外交50年』江蘇人民出版社、2000年
『中華人民共和国外交史』

第一巻 1949-1956 裴堅章主編 世界知識出版社、1994年

第二巻 1957-1969 王泰平主編 世界知識出版社、1998年

第三巻 1970-1978 王泰平主編 世界知識出版社、1999年

田曾佩主編『改革開放以来の中国外交』世界知識出版社、1993年

韓念龍主編〈当代中国叢書〉『当代中国外交』中国社会科学出版社、1987年

◆国際冷戦史のなかの中国、中国外交

楊奎松編『冷戦時期的中国対外関係』北京大学出版社、2006年

楊奎松、沈志華、李丹慧、牛軍、蔡佳禾、張曙光、陳兼

華東師範大学冷戦史研究中心 『冷戦国際史研究』①②③世界知識出版社、2004年～

中国における中国外交（史）研究②

◆米中関係

戴超武『敵対と危機的年代 1954～1958年の中美関係』社会科学文献出版社、2003年
 官力『跨越鴻溝 1969-1979年中美関係の演変』華南人民出版社、1992年

◆中ソ・中ロ関係

沈志華・李丹慧『戦後中蘇関係若干問題研究』人民出版社、2006年
 李丹慧編『中国与印度支那』天地圖書、2000年
 楊奎松『毛沢東と莫斯科の恩恩怨怨』江西人民出版社、1999年
 沈志華『中蘇同盟と朝鮮戦争研究』広西師範大学出版社、1999年

◆日中関係

金熙徳『中日関係 復交30周年的思考』世界知識出版社、2002年
 林代昭『戦後中日関係史』北京大学出版社、1992年

◆中国における国際関係理論研究

王逸舟主編『中国国際関係研究（1995-2005）』北京大学出版社、2006年

中国外交の時期区分、一つの見方

【龐中英「半個世紀的中国外交」『国際経済評論』1998年第5/6期より】

★中国外交を拘束するもの

① 内政の拘束、反映、② 国際大格局の拘束、反映

★中国外交の3原則

① 内政と外交の不可分原則（外交は内政に服務する）
 ② 世界経済と国際政治システムへの反応
 ③ 政治・経済不可分原則（経済factorはもっとも重要なもの）

★新しい時期区分

◆1949年～70年代末 国際環境への防御としての外交

◆1980年代～冷戦終結 独立自主、経済利益に奉仕する外交

◆ポスト冷戦期 経済と政治のGlobal化、国家利益の確保

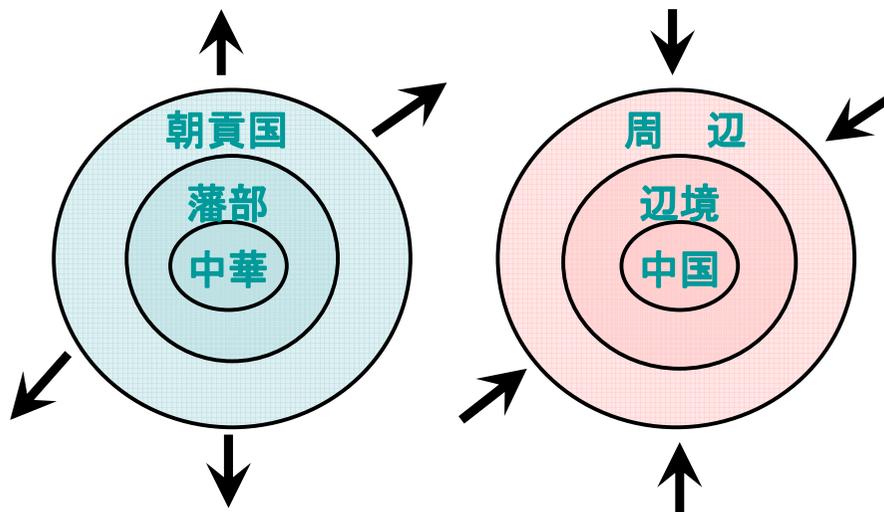
★もう一つの傾向---戦略論から

①1949-1959 一辺倒期、②1960年代 二条線期（反米・反ソ）、③1970年代初～80年代初 一条線期（反ソ）、④1982年～独立自主期（非敵非友）

【張小明「冷戦時期新中国的4次对外戰略抉択」『当代中国史研究』1997年第5期】

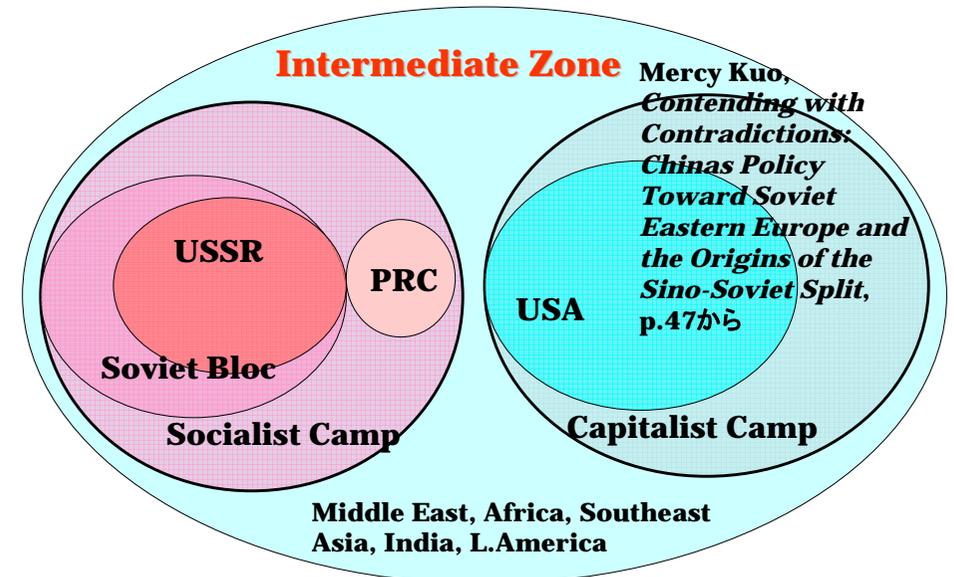
中国と外部世界

伝統中国と毛沢東時代

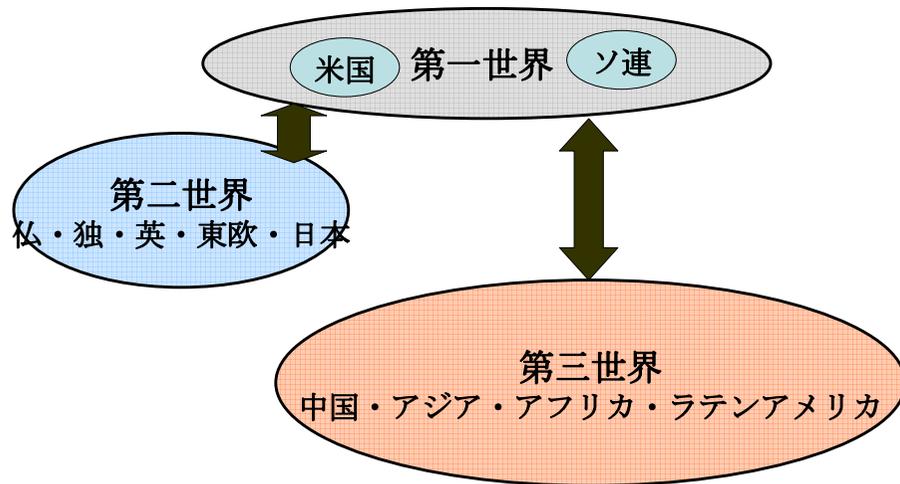


「中間地帯」論

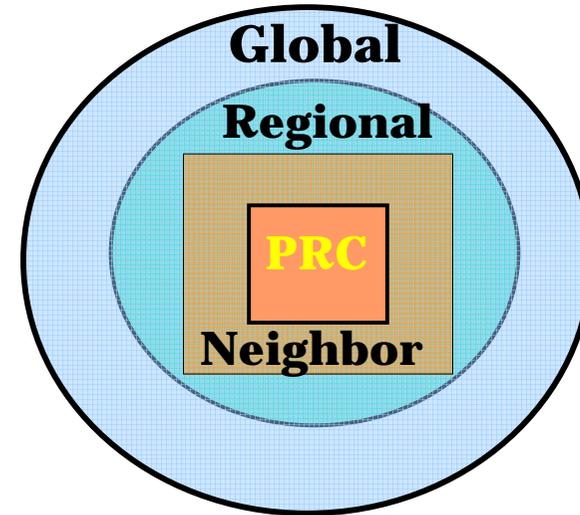
1960年代



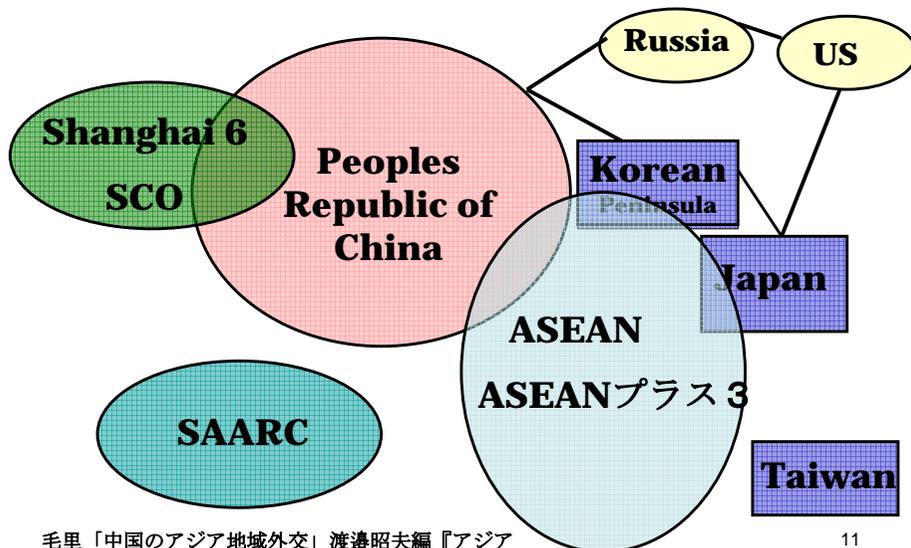
三つの世界論 1970年代



現代中国と外の世界—2000年代



中国と地域協力機構 2000年代



毛里「中国のアジア地域外交」渡邊昭夫編『アジア太平洋連帯構想』NTT出版、2005年

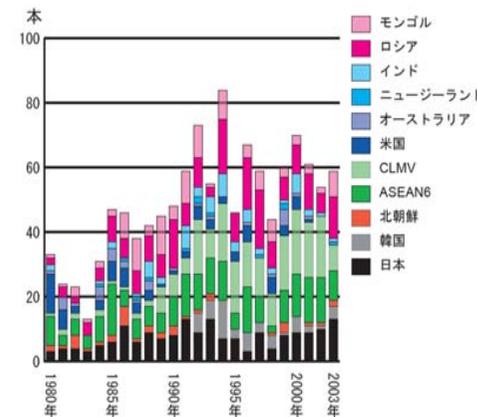
中国-拡大東アジアの交流 条約・協定 1980-2003

【くシリーズ東アジア共同体の構築④図説ネットワーク解析】より】

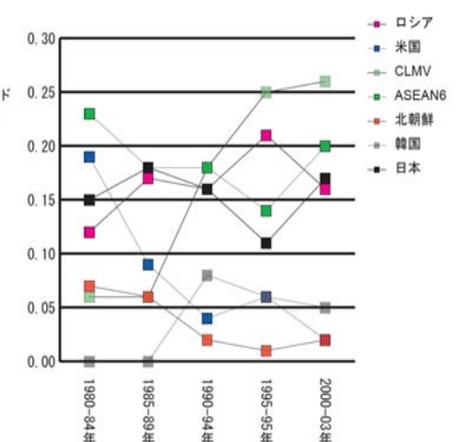
■中国条約交流

job_0

年代別推移



相手国比率推移



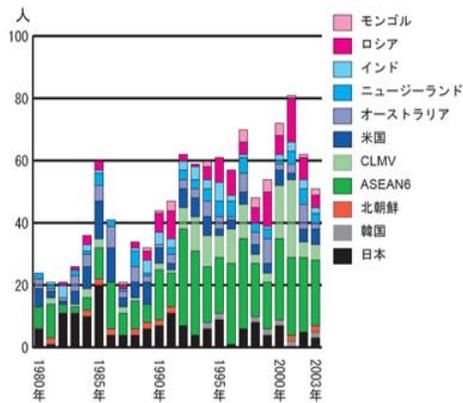
中国-拡大東アジアの交流 首脳交流 1980-2003

【〈シリーズ東アジア共同体の構築④図説ネットワーク解析〉より】

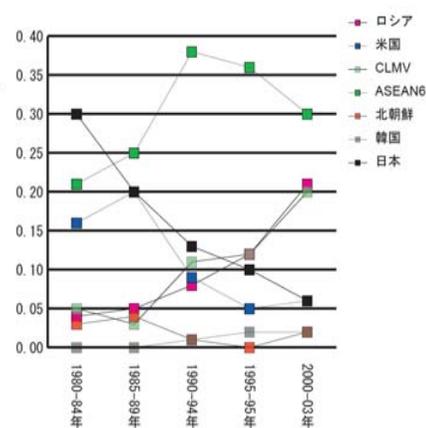
■中国首脳交流

job_038

年代別推移



相手国比率推移



中国における二つの「地域主義」2000年代

★東アジア一体化、もしくは東アジア共同体——新型地域主義

コンストラクティビズムからASEANを分析、ASEANのノルム、ASEAN WayによってASEANは「安全保障共同体」の原型を作っている、あるいは「想像の安全保障共同体」だとする

【鄭先武(南京大学国際関係研究院)、王正毅(北京大学国際関係学院)】

★上海協力機構SCO----「勢力圏」型旧地域主義 2001年

- ①軍事安全保障がこの機構および地域協力の第一義的機能である。
- ②地域主義が、a. 歴史的文化的な帰属性アイデンティティ、b. ある外的圧力やパワーに対応するアイデンティティ、c. 経済協力や環境協力などの明確な機能を設定したアイデンティティによるものの3種に分けられるとすれば、SCOは、a. 帰属性アイデンティティをまったくもたない、b. 型である。
- ③ASEANが内発的に成熟してきたのに対して、SCOは中国が「作り上げた」ものである。

★中国にとってのSCO

- ①資源戦略、②対テロ協力、③米国への対抗、④権威主義政権保持

中国の国家利益観 1990年代～

★1989年10月 鄧小平→R.Nixon

「国と国との関係を考えるときには主として国家自身の戦略的利益から出発すべきである。自国の長期的な戦略利益を重視し、同時に相手の利益も尊重する。・・・」【『鄧小平文選』3、330頁】

★国家利益とは----三つのレベル

- ①主権と安全（独立と生存）、②経済発展と繁栄、対外競争力（発展の利益）、③国際社会での影響力、地域、役割（国際事務参与の利益）

【俞晓秋・閻学通・陶堅「90年代中国的国家利益」『人民論壇』1993年第5期】

★国家利益論の体系化 論争あり

◆国家利益に階級性なし、◆国家利益と個人利益は統合される、◆国際利益は国家利益の変型したもの、◆国家利益は変化する、◆国家利益は国境内に限定されない、

◆レベル—緊迫・重要・次要

▲現実的的国家利益

- ①経済利益、②安全利益、③政治利益（主権・権利）、④文化利益（民族認同）

【閻学通『中国国家利益分析』天津人民出版社、1996年】

中国の国際関係理論

【王逸舟『中国国際関係研究(1995-2005)』北京大学出版社、2006年より】

★時期区分

- ① 1949年以前、②1949-1963年、③1963-1978年、④1978-90年代初、⑤冷戦後

★いくつかの理論の位置

◆マルクス主義国際関係論 影響力の失墜。だが、人道思想、社会批判理論、帝国主義論、国際規模の階級闘争などで生命力がないわけではない。

◆現実主義理論 この10年来、中国、とくに若手研究者の間で人気なし。国際関係の変化・発展を見ないし、また非国家主体の役割を軽視するため。

◆国際制度理論 この10年来、急成長中。リベラリズムの主流になった。中国のWTOを初めとする国際レジームへの参加が契機。

◆建構主義理論 きわめて急激に活発化。欧米よりもむしろ主流。秦亞青、袁正清、方長平など若手研究者。

★国際関係理論の「中国化」をめぐる

孫子の兵法、北京コンセンサス、リージョナリズムなど。冷戦直後は、中国の特色ある国際関係理論が必要かどうか、最近では、どのように作るか、に変化。大国には、外交特性、思想と理論の特性、アイデンティティの特性があるのは当然。

中国の外交思想の特徴

【王緝思「国際関係理論与中国外交研究」『中国社会科学季刊』（香港）第一巻、1993年2月より】

思考の枠組みは40年来、変わっていない、とする。

- ①国際情勢はたえず変化するので、外交思想、対外政策は絶えず調整される。
- ②思考における高度な抽象性。「張り子の虎」論、「戦争と革命」→「平和と発展」
- ③アクターとしての国家が中心。敵と友、大三角関係など。もっともイデオロギー色が薄い。
- ④強烈なモラル色。プロレタリア国際主義、平和共存5原則、覇権主義反対、（対日二分論も？）

中国外交の特質----Tentativeな観察

★あらゆる主義・理論の活用

イシュー毎

領土・資源・エネルギー	現実主義、pragmatism
経済協力	建構主義
global issues	制度主義

相手別

大国	現実主義
日本	moralism
地域主義	現実主義と建構主義の使い分け
国際機構、レジーム	制度主義

★「外交はパワーであり、芸術である」

Harry Hardingの「嘆き」、外交学、外交要員、国際関係研究の隆盛

★ 主権至上主義

非中央アクター、非政府アクターの位置